

栄光

説教……………	1
特集・戦争と平和、 涙と笑顔……………	2
初夏の集い……………	6
伝道師の書き込み……………	7
牧師の書斎から……………	7
長老のファイル……………	8

説教

『死は命に飲み込まれる』

コリントの信徒への手紙二 5章1節～5節

日本キリスト教会高知旭教会牧師 青木 豊

今日の説教題は4節後半「死ぬ
はずのものが命に飲み込まれてし
まうために、天から与えられる住
みかを上に着たいからです」から
つけました。この言葉を聞いてあ
る人が「ここには、わたしどもが
日頃考えていることと反対のこ
とが語られている」と言っています。

まず、わたしどもは「命が死に
飲み込まれる」と思っています。
死を身近に経験した時のわたしど
もの実感でしょう。しかし、命を
飲み込んだ死を「もつと大きな命
が飲み込む」と言うのです。

また「死んだ後どうなるのか」
についても、わたしどもの考えと
反対のことを語っています。わた
しどもは、ともすればキリスト信
徒も「死んだ後も魂は死なずに残

って、「天国へ行く」とか「天で
わたしどもを見守っている」と思
っているのではないのでしょうか。

その考えとハッキリ対立して聖書
は語っています。聖書では、体も
心も魂も全て一体であって切り離
すことができません。体も心も魂
も一体のわたしどもを丸ごと命が
飲み込むのです。このことを4節
は建物や着物にたとえて「地上の
住みかを脱ぎ捨てたいからではあ
りません。死ぬはずのものが命に
飲み込まれてしまいうために、天か
ら与えられる住みかを上に着たい
からです」と語っています。

「脱ぎ捨てる」のか「上に着る」
のかということは、ただ「死んだ
後どうなるのか」ということに尽
きません。実は「今をどう生きる

か」ということと深く関わります。
この手紙の宛先であるコリントの
教会は問題の多い教会であり、中
には平気で不道徳なことをする人
もいました。その急所がここにあ
るとパウロは考えているのです。
コリントの教会の人たちは、当時
のギリシャ人の一般的な考えに従
って、死んでも魂は永遠に生きる
と考えていました。そして、朽ち
滅んでいく目に見える肉体より
も、見えない魂を大切にしました。
だから、魂の救いを求め、魂さえ
救われれば「肉体なんかどうでも
良い、むしろ死によって肉体から
魂が解放されることこそ救い」と
思っていました。それで、肉体を
もつてする生活、即ち日々の普通
の生活を軽んじました。ここに間
違いの根本があったのです。

パウロは「この地上の幕屋にあ
って苦しみもだえています」（2
節）、「この幕屋に住むわたしたち
は重荷を負ってうめいておりま
す」（4節）と、肉体をもつてす
る生活の苦しみを語っています。
老いて、肉体に痛みを抱え、肉体
が不自由になると、その苦しみを
痛感させられます。更に、パウロ

はローマの信徒への手紙7章で、
良いことをしようとする心を肉体
の行いが裏切ることを嘆き、「わ
たしはなんと惨めな人間なのでし
ょう。死に定められたこの体から、
だれがわたしを救ってくれるでし
ょうか」と悲痛な叫びをあげてい
ます。

この「死ぬはずの」わたしども
が丸ごと「命に飲み込まれる」の
です。それは「主イエス・キリス
トがわたしどもと同じ人間とな
り、わたしどもの罪を負って十字
架で死に、復活してその命の中に
わたしどもを飲み込んでくださった
た」ということです。わたしど
もは洗礼によって主キリストと一
つに結ばれ、主の死と命に与る者
とされたのです。それ故、死ぬべ
き肉体をもつてしたわたしどもの
行いも命に飲み込まれ、生かされ
るのです。だからパウロは、コリ
ントの信徒への手紙一15章の末尾
で「死は勝利にのみ込まれた」と
言い、「主の業に常に励みなさい。
主に結ばれているならば自分たち
の苦勞が決して無駄にならないこ
とを、あなたがたは知っているは
ずです」と励ましています。

戦争と平和、涙と笑顔

毎年8月を迎える度に、
私たちは平和への願いと想いを
ますます強くし、祈りを合わせます。
たくさんの涙を流した先には
きっと笑顔もあったはずです。
戦争を体験していなくても、
私たちの人生は涙と笑顔の繰り返し、
そんな感じがしてなりません。
そして、そこにはいつも
神様が共にいてくださいました。



上海からの引き揚げ

森口千津子

「と引揚乗車票 博多港駅 門
司鉄道局 21・4・15」と印字さ
れハサミの入っている切符を、母
の死後、タンスの小箱の中で見つ
けた時は驚きました。終戦後、中
国上海から船で博多に着き、東京
へ向かった日の切符です。よくま
あ取っておいたこと、と思いまし
たが、母にとってはやっと無事に
日本へ帰れた記念だったのでは
う。この時、私は5才でした。

銀行員だった父の転勤で両親は
上海で新家庭を始め、私はそこで
生まれました。当時は英租界、仏・
伊租界、日本租界がある華やかな
街で、アマ（女中）さんを雇い、
蘇州に旅行し、と生活を楽しんで
いたそうです。戦争が始まり生活
は一変し、帰国も危なくなり、戦
況が悪くなると30代後半の父も徴
用されました。英語が得意だった
お陰で通訳としてでした。痩せ型
でヒョロヒョロの父でしたから兵

隊なら訓練中に死んでいたでしょ
うと母は言っていました。私の友
達の父親は、入隊して1週間もた
たないうちに塹壕掘りの訓練中に
亡くなっていったからです。

敗戦後は「中防連」で必要と
され、引き揚げが最後の船となり
ました。帰国の順番を待っている
人が大勢いるのに、守ってくれて
いた日本兵が帰国し無法状態とな
り、日中家においても近所の中国人
が集団で家に押し入り、めばしい
物を取っていくという目にも遭い
ました。命を守るため日本人は1
ヶ所にまとまって住みましよう
と日本人街のアパートに引っ越し、
自衛団を組んで帰国の船を待ち、
波止場に行く日は、夜明けと共に
三輪トラックに身を伏せシートを
かぶり、息を殺していました。

乗船前にはMPによる荷物の検
査があり、指輪はダメ、時計は1
個と制限があり、隠し持っていな
いかと厳しく、あちこちで悲鳴と
いざこざが起きていました。乗船
できた時には子どもながらホッ
としたのを覚えています。

コロナ禍ですが、今の平和が続
きますように祈ります。

この子らの笑顔、いつまでも

泉 中西

ある日の午後、急に玄関先が賑やかになり、ドアの先には、にこにこ顔の見慣れた顔、顔、顔がランドセルを地べたに、ノートと鉛筆をその上に置いてしゃがんでいるのです。

「洋平君のおばあちゃん、戦争の話聞かせてください」。

「どうして突然来るの、準備というものがあるのよ」と心でばやきながらも、これはチャンスだと思つた私は知っている限りの戦争の怖さを聞かせました。1939年生まれ、都会育ちではない私の戦争体験はあまりに乏しく、広島、長崎、沖縄への旅行で聞いた話、また映画、読書から得て、身震いした戦争の悲惨、今の幸せな生活が破壊され、家族がばらばらになる怖い戦争は、2度と起こしてはならないことを。

「戦争と平和、涙と笑顔」の『栄光』依頼文を見たとき、一番にこ

の時の様子が昨日のことのように思い出されたのです。23年の時が過ぎ、あの日の子どもたちは30歳になりました。一番怖いのは戦争だけれど、この先たくさんの出来事に遭遇しながら、山あり、谷ありのそれぞれの人生をあゆむことでしょう。洋平のおばあちゃんは、みんなの泣き顔は見たくないけれど、大泣きした後には必ず笑える日が来ると、身をもつて体験したこともいつか伝えたい、と思つています。おばあちゃんにはいつも「神様」が一緒に居てくださったことを。

明治大学生田キャンパスの片隅に、私がたまに訪れる場所があります。明治大学平和教育登戸資料館と呼ばれていますそこは、アジア太平洋戦争において、秘密戦の中核を担っていたところです。風船爆弾、偽札作り、人が人に打つ注射の人体実験など、最初にそこで説明を聞いた時のショックは忘れられず、「悪魔」にもなる人間の恐ろしさと思うとき、戦争を知らない世代の方たちに是非「登戸研究所」に足を運んでいただきたいと思っています。

行き来頻繁の危ない縁故疎開

佐々木慶太郎

米軍横田基地がある西多摩郡瑞穂町の八高線箱根ヶ崎駅付近で、青梅街道から分かれ、今は青梅市小曾木おそぎになった旧小曾木村の岩蔵温泉に至る岩蔵街道が始まる。小曾木に入るには、手前の旧藤橋村の笹仁田峠を越えねばならない。引越し荷物を積んだ牛車を牽く牛がここで動けなくなったが、自転車で付き添っていた父の機転で何とか疎開先に荷物を届けられた。疎開したのは祖父母と私、父方の年上の叔母とその長男と長女、年下の叔母とその長男の8人で、2歳年上の姉は父母と実家に残ったが、終戦後に引き上げるまでの期間、頻繁に疎開先を訪れていた。東京の学童集団疎開が始まったのは昭和19年の8月で、当時私は松沢国民学校の4年生だった。青梅方面に縁はなかったが、近所に住んでいた人がそちらに疎開すると言うので、それを伝手にした。

また、父には「遠くに行かせたくない、疎開中も行き来させて顔を見たい」という思いもあった。立川駅を出ると直ちに窓のシャッターを下ろさせ周囲の軍事施設を見せないようにする青梅線は何回も乗った。小作駅で降りて疎開先に行く時も、実家に戻るため疎開先から小作駅に向かう時も、長い距離を歩いた。吉祥寺の駅で艦載機の機銃照射を受け、駅舎の片隅で息をひそめたことがある。また、昭和20年5月25日の山の手大空襲後に新宿から我が家まで、火が燃え続ける焼け野原を歩いたことも忘れられない。

玉音放送は疎開先で聴いた。もう戦争に行かなくて済むという安堵感に満たされた覚えがある。終戦後、軍の食料等を隠匿していた近くの洞穴から運び出した木炭車が焼け、積んでいた米をお持ちくださいと言われて得をした経験が姉にはある。木炭車も牛車も「これでは勝てないな」と思わせる存在だった。危ない疎開だったが、これと言う被害も受けずに済んだ。神の御力はこんなに前から私に働いていたのだろうか。

私の疎開体験

岡田 基

昭和16年12月8日、ラジオが日米開戦のニュースを伝えたのを母の膝の上で聞いた記憶があります。

昭和19年4月、3年生になると、1学年下の妹と共に曾祖母の住む外房長者町に縁故疎開しました。土地の子ともたちは私たち疎開っ子を分け隔てせず接してくれたので田舎の生活にも容易に馴染め、自然の中での暮らしを楽しめました。

戦争中とは言え、のんびりとした日々で、近くの入江でカニや小魚を追いかけて、シジミや青海苔を採り、夏には海水浴をし、自宅の畑で育てたスイカや黄色い瓜も食べることが出来、甘い物に飢えていた子どもには嬉しいことでした。

秋に入ると校舎が陸軍兵士の宿舎となったため、学年毎に分散しての授業となりました。私たち3年生は通学距離が大幅に遠くなりましたが、運動場のある山の分校

場で授業を受けることが出来ました。2年生の妹は運動する場所もない火の見櫓下の消防団の狭い詰め所を教室とする授業で可哀想でした。

昭和20年4月、4年生の新学期には、前年から伊豆長岡温泉に集団疎開していた成城疎開学園に合流させて貰いました。後で父から聞いた話によると、集団疎開への参加資格が3年生以上であったため、妹が3年生になるのを待って兄妹一緒に集団疎開に送り出したとのことでした。

疎開先の温泉旅館の大和館は、道路に近い本館と青い瓦屋根の建物が山の斜面に点在する離れの南山荘とからなる素敵な宿屋さんで、その本館が私たち疎開児童が寝起きし、学びの場でした。8畳程の部屋毎に6年生を班長に3年生までが縦割りに編成され、朝の起床から夜の消灯迄の間、朝礼の整列、食事の着席位置等、班別にまとまって行動していました。

勉強は算数・国語を自学自習して、自分なりに習得したら先生に報告し、先生の質問に答えて合格すると次のページに進めるとい

う方法で行われました。午後の自由時間には、南山荘玄関前の小広場、道路からその玄関へ向かう坂道、裏手の松山も全てを遊び場としていました。

楽しかった伊豆長岡温泉での生活も、東京空襲に向かう米軍爆撃機が頻繁に伊豆上空を飛び、その度に眠りから起こされて防空壕に避難を強いられるようになったため、7月には新潟県へ再疎開となりました。

伊豆から新潟への移動中通った山手線ホームの屋根が空襲で焼けて、ホームの真上に青空がよく見えたことや、焼けただけでフニヤッと折れ曲がった鉄柱だけが残っている異様な駅ホームの風景が幼い記憶に残っています。

新しい疎開先は穀倉地帯の田園風景が広がる村のはずれから更に奥の山の中で、杉木立に囲まれた石段を登った山寺、慈光寺です。



石段上の山門の先に広い庭を囲んで正面に本堂、左手に僧堂、右手に庫裏がある藁吹き屋根のお寺で、僧堂が私たちの生活の場であり学びの場でした。

お風呂は温泉が溢れ流れる伊豆の大きな湯舟と違い、住職が使う小さいお風呂に入れて貰いましたが、東京の我が家と同じ造りの五右衛門風呂だったので、我が家での入浴を懐かしく思い返しながら

私の戦争体験

大友 隼子

1941年9月瀋陽（旧満洲の奉天）生まれの私は、太平洋戦争の中で幼児期を過ごしました。4才下の妹は、敗戦の1ヶ月前の7月に生まれました。断片的ですが、怖かった時のことなど思い出します。昼間でも黒いカーテンを引いて息をひそめていても、玄関の厚い木の扉を銃尻で破って何人も人が押し入って来た時などは、母が必死に守ってくれました。

引揚げは敗戦後2年の夏でした。長姉は、体調がすぐれず担架で乗船しました。満員の船中は蒸し暑く、私は熱中症のようになります。母が水を飲ませて、息をするようになったようです。引揚げまで毎日一斗缶の中に、堅いビスケットを焼いて保存食を蓄えていました。

佐世保に上陸した時は、皆、頭からDDTの粉をかけられました。母の実家の秋田へ向かう途中、

東京の病院へ姉を入院させようとしたら、姉が「皆と離れるのは嫌」と一緒に秋田へ行きました。

父は、中国東北部で満鉄の石炭で働いていましたので杜宅住まいでした。敗戦後ロシア人の将校2人が、杜宅にしばらく居ました。

秋田には2ヶ月程居りましたが、大勢の子どもを連れて暮らすのが心苦しかったようで、早く家族だけで暮らしたかったようです。経堂に母の友人の（秋田の教会で矯風会で一緒だった）早川さんがいらして千歳船橋に家をもつてくださったって、一つの布団に何人かで寝るような生活が始まりました。私は、経堂教会（現在の経堂緑岡教会）のCSへ行き、大学4年のイースターに受洗しました。結婚後体調を崩したりして、教会から遠ざかっていましたが、お向いの桜岡ふじさんが浩一君を遊ばせている時に声をかけてくださり、桜岡家の家庭集会に参加して、理代さんに勧められて、経堂北教会へ行くようになり転会しました。

早いものでいつのまにか80近くになりましたが、今でも聖書を読

入ったのでした。

空腹を満たすため、恐る恐る捕まえた蛙を焼いて食べたのも初めての経験でした。香ばしく美味しかったのですが、皆が競って捕まえたためか、間もなく蛙は居なくなってしまうました。

毎月1回誕生会があり、その月に生まれた児童には料理が追加されたのです。8月生まれの私の誕

むたびにハッとさせられます。人間のおろかしさは、旧約の時代から続いて戦争というものがなくな

生会当日、本堂に整列していた私たちの耳に聞こえて来たのは戦争終結を告げる玉音放送でした。戦争が終わったのだ、懐かしく恋しい家族の待つ東京に帰れるのだ、との喜びと同時に、待ちに待っていた誕生会が中止となり、楽しみにしていたご馳走を食べられなくなった残念な思いだけが鮮明に残ってしまいました。

りません。罪の中にいる私たちのために主イエス・キリストが十字架にかかり神様と和解させてくださいました。

家計のために兄は、ビルの清掃をしたり姉たちは洋装店を開きました。父の給与で生活出来るようになるまで。アニメ映画「この世界の片隅で」で、人は、困難な状況でも、小さなことに楽しみを見出して生きていくことを改めて思いました。

庭での兄や姉や妹と一緒に写した写真は、敗戦後とは思えない明るい写真です。



教会初夏の集い 2020.6.21

『キリストの肢体として生きる』

ローマの信徒への手紙 12章1節～5節

日本キリスト教会高知旭教会
青木 豊 牧師

係をあるべき有り様にする神の働き」です。聖書では「関係」こそが重要なのです。人は孤立した存在ではなく「他との関係において存在している」からです。

パウロは、原理原則から語り始め、具体的な教会の問題への勧告（14章以下）に向かって、見事に筋道立てて語っています。

まず「自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい」（1節）と勧めます。これが最も根本的な勧めです。次いで「何が神の御心であるか、何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであるかをわきまえるようになりなさい」（2節）と勧め、「わたしたちも数は多いが、キリストに結ばれて一つの体を形づくっており、各自は互いに部分なのです」と語っています。つまり、「自分の体を献げる」とは「キリストの体なる教会の肢体として自分の体を献げる」ことなのです。

そして「互いに真実に愛し合う」ことを勧め、それが「そのほかどんな掟があっても、「隣人を自分のように愛しなさい」という言葉に要約されます」で頂点に達しま

す。13章11節以下では、愛の戒めを終末論的に語り直しています。即ち「終末の救いの完成を、今、生き始める」よう勧めています。

3. 教会の具体的課題

(1) 新型コロナウイルスの世界的流行をどう見るか

様々に大切なことが語られています。わたしはウイルスが敵なのではなく、背後にいるサタンこそ本当の敵だと考えています。新型コロナウイルスを恐れるのは、死ぬ危険があるからです。そのため、1つの群れとして集まって礼拝することができなくなっています。サタンがウイルスを用い「死の恐怖」を武器として神の民を攻撃し、共同体を壊そうとしています。「共同体として歩み続けることができるか」が試されています。

(2) 高齢化から教勢の減少へ

1995年に高知旭教会に赴任した時、高知県は「高齢化先進県」でした。教会はもともと更に進んでいて、70歳以上の方が大半でした。そこで意識した課題は「高齢で礼拝に出席できなくなっても、最後まで教会として共に歩む」ことでした。そのために、「老人病院」

に入院している方を、毎週、教会員が車で送迎して礼拝に連れて来たりしました。高齢化から教勢の減少に進んだ今は、それができなくなりました。その働きを担う人が少なくなつたからです。牧師だけでなく、長老をはじめ教会の働きを担う人が不足しています。表面化していませんが、教会の財政を支える人も少なくなっています。教会員を養い育てることが重要な課題になっています。

(3) 若者と共に歩む

文字通り「共に歩む」ことが大切です。近畿中会青年部修養会にSCF（学生キリスト教友愛会）の野田沢先生を講師にお招きした時、先生は若い青年の中に入り込んで、グループ作りを促しました。それで、プールサイドで声援を送るだけでなく「一緒に泳がなければならぬ」と気がきました。日本キリスト教会では「全国青年の集いを隔年で開催する」ことを大会で決議して、2回実施しました。それまでは、「福音派」で青年キャンプが盛んなのを横目で冷ややかに見ていたのですが、その重要性に気付いたのです。

1. はじめに

「年間テーマに即した講演を」とのご依頼を受け、「共に」を「キリストの肢体として」と受け止めて講演題を決めました。先ずローマの信徒への手紙から基本的なことを学び、次に「今直面している具体的課題」をお話しします。

2. ローマ12章以下から

ローマの信徒への手紙を貫く主題を「神の義」とすれば、12章以下は「生活における神の義の貫徹」を語っています。「義」とは「関係の正しさ」であり、「正しさ」とは「あるべき有り様」です。「神の義」とは「神と人、人と人の関

伝道師の書き込み

月報でもお知らせしたことです
が、例年8月に行っていたCSの
キャンプを今年は中止としました。
コロナウイルスの感染対策のこと
はもちろんですが、今年は子ども
たちの夏休みの期間も学校によっ
てまちまちのようで、やはりキャ
ンプを開催するという選択は難し
かったと思います。7月末の納涼
会、10月のバザーも中止するこ
とが決定しています。やれることは

あまり多くはなさそうです。教会
学校でも、できることは礼拝だけ
です。一時休止していた教会学校
の礼拝は6月に再開できています
ので、とにかくなによりもこれを
大事に、9月以降も注意しながら
礼拝を捧げていきたいものです。

こうして教会でできることが礼
拝だけになるというのは、残念な
ことではありますけれども、大事
なことであるようにも思います。
教会にとつて何をおいてもすべき
ことはやはりこの礼拝なのだと思
わせてくれるような状況でもある

と思います。先日、もより牧師会
が行われました。コロナ禍におけ
る各教会の状況を知る良い機会と
なりました。礼拝についてはどの
教会においても、来られない方の
ためにどうするかを改めて考える
機会となったようです。それまで
してきた対応に改めて反応があっ
た教会、また新たにネット配信な
ど取り組みを増やした教会があり
ました。経堂北教会でも緊急事態
の下でのことなので、恒常的にど
うするかは今後考えることではあ
りますが、礼拝のネット配信をす

ることで、家族と礼拝するなどの
新しい展開が与えられました。
課題や悩みは色々ありますが、
なにより私たちはキリスト者とし
て主の前に立つて御言葉に聞くこ
とを、礼拝をすることを第一にし
て歩んでいきたいと願います。そ
のためにもまず自分がかからない
ように、コロナを言い訳に今年の
夏期休暇は家に引きこもっていよ
うかと思っています。出不精として
これ以上ない過ごし方ができるの
は、私にとつてのコロナの恩恵で
す。

(狩野進之佑)

牧師の書斎から



3ヶ月ぶりに聖餐を祝いまし
た。長老会で協議し、準備も試行
錯誤でした。当日も慣れない手順
に緊張しました。教会は聖書に基
づいて正しく説教と聖礼典(洗礼・
聖餐)を行う信徒の集いです(ア
ウグスブルク信仰告白第7条)。

コロナ禍でも何とか教会本来の在
り方に立ち帰ることができまし
た。ただし、ライブ配信で礼拝し
ている方と聖餐を祝うことはでき

ません。訪問聖餐も躊躇されると
ころです。『栄光』8月号が出る
ころに何もなければ安全性の面で
も安心です。まだまだ一歩踏み
出したところ です。

久しぶりのものより牧師会で、洗
礼式を行ったとの話が出ました。
嬉しいことでした。こういう状況
だからこそ、受洗者が誕生するよ
うに伝道に励まなければならな
いと自戒もさせられました。

話は前後しますが、6月の末、
西千葉教会で行われた千葉支区伝
道協議会と支区総会に出席しまし

た。交通事情が読めず、日曜の夕
方から千葉に前泊しました。ホテ
ルはガラガラ。調査票への記入、
検温を済ませ入室できました。

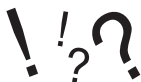
協議会には50人余、総会には70
人余が出席していました。講壇に
は透明パネルが張られ、1人おき
で座るよう座席が指定されていま
した。もちろん消毒とマスクは必
須でした。昼食の準備はありません
でした。もつとも講演者には隣
の中華料理店から温かい弁当が届
けられました。

協議会のテーマは「伝道推進と

教団機構改定について」でした。
全国各地にある伝道の最前線とな
る教会のネットワークを維持強化
し、それを支える教団となるよう
機構改定する必要があることを話
しました。教勢減が教団財政の逼
迫となっています。今の組織を財
政的に維持できるのは2020年
度までです。伝道に人材と財を集
中する組織とならなければ、10年
後どころか、来年度さえ教団の活
動は覚束ないのです。まず、その
危機感をそれぞれの教会が共有で
きたら幸いです。

(岸 俊彦)

個人消息



掲示板



○教会総会で下記の方々が長老に選ばれました。
石室裕一、大友太郎、酒井由紀子、鈴木こづえ、
千葉一恵（任期 1 年）、照内眞知子、尾藤美紗子

編集後記



▽今月も特集で皆さんの体験や思いを分かち合っ
ていただき感謝します。そして二度と戦争を起
こさない国でいられますように。（沢田）

「栄 光」2020 年 8 月号
日本基督教団 経堂北教会
〒156-0051 東京都世田谷区宮坂 3-21-11
電 話：03-3428-5029 / FAX：03-3428-5038
牧 師：岸 俊彦 伝道師：狩野進之佑
編 集：栄光編集委員会
Email：kyodon@nifty.com
HP：http://kyodokita.life.coocan.jp

長老のファイル



新型コロナウイルスの影響で2ヶ月延期
されていた教会総会が、6月28日
に開催されました。3月には礼拝
出席者が平均77名でしたが、4月
は緊急事態宣言を受けた自粛のた
め33名に減少、前年4月の平均107
名から3分の1まで落ち込みまし
た。それが、5月には41名、6月
には73名と、距離を保ち換気を行
う対策をしながら、ようやく礼拝
出席者も増えてきました。結果、

総会出席者も73名と、総会成立に
必要な現住陪餐会員数の3分の
1、67名を上回り、一安心いたし
ました。教会総会では長老が選任
され、7月14日には新旧長老会を
開催、責任長老の新たな役割分担
も決まり、新しい体制で本年度の
長老会が開始されました。私も昨
年度に引き続き、会計長老を務めさ
せていただくことになりました。
献金については、昨年度と比べ
て減少しているとは言え、それほ
ど大きな落ち込みとなっていない
のは、皆様のお支えにあります。

出席できない教会員の方々は、郵
便振替や銀行振込等でご対応くだ
さっています。夏期献金について
もご協力をいただいておりますこ
と、感謝です。
また、リアルでの礼拝参列が出
来ない方々や地方に移転された
方々で、ライブ配信を視聴してい
ただけていることもうれしい限り
です。5月の視聴者数は平均49名
で、リアルな参列者との単純合算
では平均90名、6月はリアルの参
列者が増えたため、視聴者数は平
均27名となりましたが、合計は平

均100名となりました。この数は、
昨年の5月、6月の平均出席者数
である100名に匹敵するものです。
場所や時間に限らず、思いを同
じくして兄弟姉妹と共に主を賛美
礼拝できますこと、主に感謝しま
す。「ひとりよりもふたりが良い。
共に労苦すれば、その報いは良い。
倒れれば、ひとりがその友を助け
起こす。倒れても起こしてくれる
友のない人は不幸だ」（コヘレト4
・9、10）。コロナ禍でも、人々が
支え合って主の道を歩んでいかれ
ることを祈ります。（門田浩一郎）